「災害に強いまちづくり」市民防災アピール

20世紀…

明治の先人たちの努力を礎に大都市として発展した近代京都。幸いにも，京都の20世紀は，大地震もなく，戦災も免れ，今日，私たちは，美しい自然，多くの文化財と独自の都市景観を保つ京都を誇りとして，日々の暮らしを営んでいます。しかしながら，平安京の名のとおり，京都には大きな災害は来ないだろうと，心地よい「京都安全神話」の中に，いつしか私たちの災害に対する恐れや備えの心構えが薄れてきてはいないでしょうか。そして，平成7年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災。

それは，自然の大きなエネルギーに対して，私たち人類が万能でないこと，とりわけ今日の大都市の災害に対する弱さを強く警告するものでした。ガレキの山，燃え続けた炎，その中で，多くの住民の命や財産が失われたことは，私たち京都市民にとっても，忘れられない，また忘れてはならない経験と教訓であり，今それをどう活かすかが問われています。しかし，阪神・淡路大震災では，そのような状況にあっても，被災地のみなさんによって，励まし合って，助け合って，バケツリレーや救出，けがをした人たちへの応急手当，さらに避難場所での炊き出しなどが，懸命に行われました。

また，全国から，ボランティアの方々が救援活動に駆けつけ，お互いに助け合い，支え合うことがいかに大切であるかということを学びました。

京都の1200年の歴史の中で，災害に対して，私たちの先人たちは，どうであったのでしょうか。それは，幾たびもの大きな地震や水害や火災に対して物の乏しい時代であっても，お互いに助け合い，戦って乗り越えてきました。

いま，住民自治の大切さが叫ばれていますが，いざという時の助け合いこそ「自分たちのまちは自分たちでまもる」そして「自分たちのまちは自分たちでより良くしていくんだ」といった住民自治の原点ではないでしょうか。

21世紀の京都…

私たちが，いつまでも求め続けていたいものは，安全と安心のなかで育まれる，うるおいであり，ゆとりであること，そのために私たち市民一人ひとりが，日々の暮らしの中でふれあい，助け合い，支え合っていくことが，災害に対する大きな備えであり，そのために次のことを京都市民のみなさんにアピールいたします。

私たちは，防災はまちづくりだと考えます。そのために，大切なことは，

1　人と人とのつながり
2　気持ちづくり（防災意識づくり）
3　パートナーシップ

でも，「大切なことがわかった」という気持ちだけではいけません。
まず，行動を起こしましょう。
私たちは，行動提起として次の五つのことを呼びかけます。

1　一人ひとり，家庭でできることをしましょう
2　隣近所，町内，地域でできることをしましょう
3　防災組織を活かしましょう
4　市民情報ネットワークをつくりましょう
5　行政が，それらを支えましょう

21世紀の京都を災害に強いまちへ。その第一歩を，今日からともに歩み始めましょう。

「災害に強いまちづくり」シンポジウム京都市民委員会　　平成11年1月17日

市民防災アピールは，京都市自治100周年を記念し，誇り高き自治の伝統を今に受け継ぐ多くの市民の皆様の手により作成されたものです。